〔新刊紹介〕

『日本近代文学館特別展「草創期のメディアに生きて　山田美妙没後100年」展図録』

「草創期のメディアに生きて　山田美妙没後100年」展編集委員編

武田悠希

平成二十二年十月二日から十一月二十七日まで、日本近代文学館特別展「草創期のメディアに生きて　山田美妙没後100年」が開催された。これまで、山田美妙が遺した多数の自筆資料、諸家の書簡、旧蔵書などは、日本近代文学館（塩田良平文庫）、立命館大学図書館、早稲田大学図書館（本間久雄文庫）に三分されて個別に所蔵されてきた。本展では、国文学研究資料館を加えた四館合同の資料展という形で、はじめてこれらの貴重な資料が一堂に会し、美妙の全体像を示すことになった。本書はその図録である。編集責任は十川信介氏、編集委員は青木稔弥氏・谷川恵一氏・中川成美氏・宗像和重氏・山田俊治氏。

山田美妙は現在、二葉亭四迷と並ぶ言文一致体小説の創始者として記憶されるに留まっているが、本書は、展示と同様の五部構成を取り、メディアとの関わりの中に生きた山田美妙という作家の多様な業績を紹介している。

「第Ⅰ部　詩人　美妙」（担当青木稔弥氏）は、幼少期、学校時代の漢詩箋や書画などとともに、新体詩関係の資料を紹介する。「第Ⅱ部　流行作家　美妙」（担当山田俊治氏）は、多様な題材に取り組み流行作家となった明治二十年から二十七年頃にかけての資料を紹介する。「第Ⅲ部　スキャンダルから『あぎなるど』へ」（担当中川成美氏）は、女性関係の醜聞記事をきっかけに、人気絶頂から一転して小説執筆の場を失い、フィリピン独立戦争に関心を抱いて『あぎなるど』を著す明治三十六年頃までの資料を扱う。「第Ⅳ部　日本語学者　美妙」（担当宗像和重氏）は、日本語学者、辞典編纂者という面に焦点を当て、美妙が世に出した多彩な辞書や、それらの編纂過程を物語る資料を示す。そして「第Ⅴ部　復活への執念」（担当谷川恵一氏）は、醜聞を機に文壇外に追いやられた後の新聞小説、また日露戦争をはさんで歴史小説、笑えない滑稽小説へと展開する晩年までの草稿や書簡、原稿などの資料を提示している。

多岐にわたる美妙資料を、その生涯を追いつつ紹介する本書は、美妙の全体像とともに、明治期のメディアの様相を伝えており、美妙研究だけでなく、草創期の近代文学とメディアの実態の捉え直しに寄与する貴重な資料となっている。また、巻末には展示資料目録が付されており、資料探索文献としても重宝されるであろう。なお、この資料展をきっかけに美妙著作の大部分を収める『山田美妙集』の企画が進み、二〇一二年春、臨川書店より刊行開始の予定となっている。

（臨川書店、平成二十二年十月、三十頁、本体価格一五〇〇円＋税）

（たけだ・ゆき　本学博士前期課程）